

後輩支援 34年まで継続

サンライズ産業(弘前)寄付

弘大図書館へ年100万円

運送業や不動産賃貸業などを手掛ける「サンライズ産業」(本社弘前市、工藤博文代表取締役)は7日、学生の学びを支援しようと、弘前大学附属図書館に100万円を寄付した。寄付金は図書購入費などに充てられる。同社は2034年までの10年間、毎年同額の寄付を続けていく。(稲葉智絵)

弘前

工藤代表取締役は同大人文学部経済学科卒業。母校への感謝の気持ちと後輩たちの教育支援として、同社

が創業30年を迎えた15年から、図書館に毎年100万円の寄付を続けている。昨年までの総額は1000万円に上った。同社は当初、寄付を昨

までの10年間としていたが、34年まで支援を継続することを決めた。

工藤代表取締役らが大学を訪れ、福田眞作学長に目録を手渡した。工藤代表取締役はあいさつで、学生時代などを振り返りながら「大学で興味を持った商業、経営が私の糧となっている。知識を得ることは人生を歩む上で大きな力になる。母校に通う後輩たちのために支援を続けていく」と語った。

感謝状を贈った福田学長は「卒業生の応援が励みになる。学生たちのために大切にに使わせていただくと述べた。

図書館では寄付金で購入した資料に企業名を表示。専用コーナーを2カ所設けて貸し出している。今回の寄付金は学生が希望する専門書のほか、地域課題の解決、ウェルビーイング(心身の健康と幸福)の研究に役立つ資料などの購入に充てられる予定。



寄付金の目録を手にする福田学長(右)と感謝状を受け取った工藤代表取締役

「大学で興味を持った商業、経営が私の糧となっている。知識を得ることは人生を歩む上で大きな力になる。母校に通う後輩たちのために支援を続けていく」と

※この記事は陸奥新報社提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学附属図書館 jm3156@hirosaki-u.ac.jp